

人空羽衣遠

ポーランド点描新聞
日本文化再発見特集

10

日本大好き！ 隣は日本であってほしい

◆人気の日本文化

ポーランドは日本から遠い国ですが、この国にも親しみを抱く日本人は多くいます。今や日本食ブームは世界的になっていまして、ワルシャワにも日本人のオーナメントが数軒あり、ポーランド人が経営するレストランが軒を連ねています。

◆盛んな武道

市内には柔道、空手、剣術、合気道などの道場がたくさんあります。ときにはヴァイオリンやピアノの演奏会も開かれます。



◆日本への片思い

ワルシャワ大学日本学科の先生によりますと、「この国の多くの人がポーランドと感ずるところが、残念ながら今のところ片思いではあるが、この国と日本の関係をよく表しています。」

◆嘉納治五郎小学校

この国では学校名を番号で表しますが、著名な人物名の愛称を別名に持っています。第26番小学校は別名を「嘉納治五郎小学校」と言います。校長は柔道家であるが、柔道を通して日本の精神である「我慢強さ」や「礼儀正しさ」を学ばせようとしたのが始まりらしいです。



ユニフォームの背には桜と日の丸が描かれていました。



◆折り紙の小学校

市の東北部に折紙の小学校がある。紙や日本舞踊です。習字発表会では、浴衣姿に扇子をもった子どもが日本舞踊を披露したり、平仮名を書いたTシャツの児童がダンスをしたりしていました。舞台背景には尾形光琳の「紅梅白梅図」や「右奥には一見返り美人図」のような屏風が立てかけてあり、風が吹くように揺れています。

大人気 ワルシャワ大学日本学科

大学は1816年の開校で、東洋学部日本学科は1919年に設立されました。1学年定員18人の同科に、毎年20倍以上の志願者が殺到し、2006年には30倍を超えています。超難関となつたほどの超難関となつています。

は転科となるため、授業以外に毎日6時間の自宅学習が欠かせないとのことです。5年の卒業まで残る学生は約6割だそうなんです。残り4割の学生は、8年間の大学院に進みます。2度は日本に留学します。先生は「留学生在が日本の本語は古くさい」と言

わけて『新しい日本語』を覚えて帰国後に正しい日本語に戻すのに骨が折れるので「苦笑いしながら」と、苦笑しながら語っておられます。国語審議会が認める正統な日本語で、将来大臣クラスに通訳をすることを目指している。大学で外国語を学ぶ以上、自国の

ことはもちろん、相手の歴史や文化について講義ができるくらいに知識や教養を身につけておくべきとのことでした。平成14年の天皇陛下ご訪問時に通訳を務めたのも同学科卒業生です。



⇒日本学科のある建物には、若い頃にシヨパンが住んでいた部屋が残されています。

◆日本クラブ

63番高校には日本研究クラブがあります。発表会などに行きました。自然・文化・芸術・経済などについて正確な情報は分かっており、見応えがありました。



やっぱり日本学科

「私は63番高校の卒業生です。昨年ワルシャワ大学を受験したのですが、第一志望の日本学科は倍率30倍以上になったこともあり、合格できませんでした。やむなく第二志望のフランス文学科に入学しましたが、どうしても日本学科があきらめきれないので、この春退学して、来年もう一度受験し直すつもりです。」
(2007年1月 63番高校にて)

日本語弁論大会

毎年3月頃に日本大使館主催の日本語弁論大会が行われます。近頃は、クラコフのヤギエウオ大学やポズナニエウオ大学、ミツキエウオ大学、ワルシャワ大学の学生が優勝することもあり、ワルシャワ大学の学生も安穩としておれない状況のようです。

この国の人は総じて教育水準が高く勤勉です。日本学科の学生は、俳句・歌・舞伎・祭・連歌・研究を通して日本に詳しく、日本の歴史や文化への関心の高さを、知識の豊富さは驚くべきです。若い人は、漫画やアニメ、日本に興味を抱き、技術力や経済力という人が多いようです。日本を認識したという人が多くいます。中高生以上の方には、日本の伝統文化、日本人の礼儀正しさ、我慢強さ、社会の平和と自由な社会などに憧れに近い気持ちを抱いています。このように日本への思いが強くなった理由としては、和食などの日本文化が国際的に広まったこと、無関係ではないところ、日本とポーランドが関係する歴史的事象があったり、以下次号…



あしがれの日本